

保護者に聴く 中学生の生活と学び

コロナ禍で子どもたちの学校生活がどのように変わったのか。中学生の保護者の方にお話を伺いました。

昨年度の一斉休校

緊急事態宣言で学校が急にお休みになってしまいました。家族で過ごす時間が増え、子どもは喜んでいました。

中学校に入学したばかりだったので、友達づくりに苦労していたと思います。担任の先生から連絡があり、手紙ももらっていたので、不安はあまりなかったです。



坂田 園子さん 中里 真理さん

新しい学校生活

タブレットで学校からの連絡が来て、夏休み明けの分散登校期間でもタブレットで友達とやりとりができたので良かったです。

コロナ禍で部活動や修学旅行が中止になっていますが、この先の将来を考えた時に、今は我慢しても良いと思います。市や教育委員会の厳しい対応方針は、子どもを考えた結果だと理解しています。

ただ、地域のつながりが薄れてしまっていることが心配です。地域協働学校が進められています。子どもが学校を卒業しても、地域とつながるような事業を期待しています。

大学の先生に聴く 子どもや学生の学び

コロナ禍で求められる学びとは何か。大学の先生に、子どもや学生の学びについて伺いました。



文京学院大学 木村 学 先生

子ども大学ふじみ野

市内在住・在学の子どもを対象に、ふるさとを学び、地域に根ざした人や場所について学習しています。大学や行政、子ども、保護者のみんなで子ども大学ふじみ野を作り上げてきたと思います。

今年はオンラインで実施しました。子どもと一緒に参加していた保護者からはオンライン上で子ども同士の交流を希望している、今後は体験学習も

新型コロナでどう変わった？
～令和2年度を振り返って～

編集委員がインタビュー

大学生の学び

してほしいなどの声が寄せられました。商業施設を借り切った鬼ごっこも楽しいかもしれません。

コロナ禍で大学の授業はオンライン授業が増え、昨年は教育実習も中止となり大変でした。今年もオンライン授業にも慣れ、チャットで質問をしてくる学生も出てきました。

パソコンを持っていない学生はスマホで授業を視聴しています。私の授業では毎回レポートを出してもらい、評価しています。

また、大学でオンライン上の交流会を実施するなど教員と学生の交流を持つ努力をしています。

友の会に聴く 歴史民俗資料館のいま

資料館の事業に協力したり、市民文化の向上を図るために活動する団体に伺いました。

現在の活動状況

機織り部会では昔の資料を基に再現する活動をしています。また、古文書部会では地元名家の古文書を勉強しています。

明治大正時代に使われていたであろう道具を実際に使えるのが魅力です。大切に使うことで道具も生きてくることを実感しています。

1年以上続く新型コロナの影響でいろいろな活動ができなくなっています。活動時間が減り、学校の授業で資料館を使っていましたができなくなりました。

一方で学校へ出張する事業が実施できました。受け入れてもらえる学校があればもっと広げていきたいです。今は展示会を行う準備をしています。

今後に向けて

歴史民俗資料館では郷土愛を学ぶことができるので、市には子どもたちに伝えるために、学校や地域を巻き込む機会を提供してもらいたいです。

私たちの活動は、歴史や郷土愛を担っているのでも、なんとか子どもたちに伝えて、またそれを次世代に伝えていく仕組みができるとうれしいと思っています。



左から順に
中里 美子さん
中野 田鶴さん
射田 昭男さん
千葉 信さん
中臣 國昭さん

支援者に聴く 外国籍市民の生活

外国籍の方の生活相談や日本語教室などのサポートを行っている団体に伺いました。

外国籍市民の生活支援

対面での活動の中止などがあり大変でした。

生活相談や支援などのサポート業務は、継続して行いました。現在は、オンライン上で会議や交流会、絵画のコンテストなども企画しています。

また、外国籍の方への生活支援として、カップ麺など食料品を提供するフードパントリー事業や、冬場に向けてダウンジャケットなどの衣服の提供やランドセルなどの学習支援品の提供も行っています。

SNSで情報発信

情報は、ホームページやSNSなどを活用しながら広報活動を積極的に行い、最新の活動状況を発信しています。SNSをフォローしていた方々に関心を

持つてもらうこと、後継者の育成や支えるための仕組みづくりなどの活動に対しての参画、厳しい状況の中で運営を行っているので人件費の補助など、活動を支えるために必要な助成をお願いしたいです。



左から順に
三宅 万里子さん
石井 ナナエさん
安 銀桂さん
小林 和恵さん